

翻訳・評論

若月紫蘭

防府市
(1879～1962)



(昭和31年2月8日、朝日新聞に掲載)

【著作】

『東京年中行事』上下巻 (明治44・春陽堂)
翻訳『青い鳥』上下巻 (大正2・現代社)
『近世初期国劇の研究』(昭和19・青磁社) ほか

翻訳家・劇作家・演劇研究家・俳人などとして多くの業績を残した若月紫蘭は、明治十二年（一八七九）二月十日、山口県佐波郡西ノ浦（現・防府市西浦）に生まれた。本名・若月保治（旧姓・藤本）。父・若月他人（旧姓・藤本）は、明治四十二年（一九〇九）一月十二日から約一年間、西浦村の助役を務めている。

西浦小学校、周陽学舎（現・防府高校）、山口中学（現・山口高校）、山口高等学校（旧制）を経て明治三十六年（一九〇三）七月、東京帝国大学文科大学英文科を卒業。東大では小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）、夏目漱石の教えを受け、この二人により文学の眼を開いてもらったのだと、後に紫蘭は書いている。

東大在学中の明治三十五年（一九〇二）、田中義一の姪・乙女と結婚。

漱石の紹介により、淡路島洲本や石川県小松及び七尾で中学の英語教員として勤めた後、明治四十一年（一九〇八）三月、中内蝶二らに招かれ万朝報に入社、記者として文芸や科学などの分野を担当した。同年四月からは東京の錦城中学で教鞭もとり、大正十一年（一九二二）まで兼職生活を続けた。

明治四十三年（一九一〇）には『アナトール・フランス短篇傑作集』やスチーブンソンの『新アラビヤ物語』などを翻訳刊行、同四十四年（一九一一）『東京年中行事』上下巻を出版している。

大正二年（一九一三）四月二十一日、紫蘭はノーベル文学賞受賞作家メーテルリンクから、童話劇『青い鳥』の日本語翻訳発行権を、直接譲り受けた。同年十二月英語版より訳して現代社から出版、さらに大正四年（一九一五）にはフランス語版より訳出して植竹書院から刊行している。

他にも『サロメ』（大正二年）、『ヴィカー物語』（大正十五年）などの翻訳を手がけた。

また戯曲・劇評を『帝国文学』などに発表、理想主義的な作者の思想を示す戯曲集『滅び行く家』（大正十年）、『石田三成の死』（大正十一年）などを刊行している。

大正十年（一九二二）八月に演劇雑誌『人と芸術』を創刊。翌十一年（一九二二）七月錦城中学を退職、八月には万朝報も辞して、十一月に東儀鉄笛を所長とする新劇研究所を設立、紫蘭自ら経営に当たり、昭和六年（一九三一）まで研究生の育成を続けた。

紫蘭は大正十二年（一九二三）頃から国文学研究を開始、次第に近松や古浄瑠璃の研究に没頭するようになった。千代田女子専門学校・日本大学・東洋大学・帝国女子専門学校などで講じながら、『詳註全訳近松傑作集』全三巻（昭和三年・五年）、『近松人形浄瑠璃の研究』（昭和九年）、『十二段草子の研究』（昭和十三年）、『古浄瑠璃』（昭和十六年）、『人形浄瑠璃三百年史』（昭和十六年）、『人形浄瑠璃史研究』（昭和十八年）などを著し、さらに『近世初期国劇の研究』（昭和十九年）において新発見資料「松平大和守日記」（昭和十五年に発見）の中の観劇日記を翻刻紹介するなど、すぐれて精力

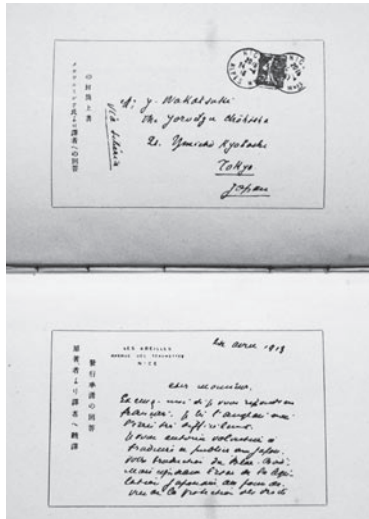


若月紫蘭夫妻(昭和31年朝日新聞に掲載)

その間、『近松浄瑠璃の本質と総合的研究』（昭和二十六年）、『元祿歌舞伎と近松研究』（昭和二十九年）、『近松芸術と元祿歌舞伎』（昭和三十二年）などを刊行した。昭和二十九年（一九五四）八月には、長年にわたる優れた研究業績に対し、日本演劇協会から表彰されている。

数多くの著作や多大な業績を残したにもかかわらず、晩年は不遇な生活を送った。昭和三十一年（一九五七）九月再び上京、昭和三十七年（一九六二）七月二十二日、老衰のため八十三歳で没している。

没後の昭和三十八年（一九六三）十月、妻・乙女の手で、遺詠集『句歌集』『影』が刊行された。（文・森川信志



原作者メーテルリンクから届いた翻訳発行承諾書（若月紫蘭訳『青い鳥』大正2年・現代社版に掲載）

若月紫蘭 年譜

（提供・森川信夫）

明治12（一八七九）年

明治36（一九〇三）年

明治43（一九一〇）年

明治44（一九一一年）年

大正2（一九一三年）年

大正3（一九一四年）年

大正4（一九一五年）年

大正7（一九一八年）年

大正10（一九二二年）年

大正11（一九二三年）年

大正13（一九二四年）年

昭和3（一九二八年）年

昭和4（一九二九年）年

昭和5（一九三〇）年

昭和9（一九三四年）年

昭和13（一九三八年）年

昭和15（一九四〇）年

昭和16（一九四二年）年

昭和17（一九四三年）年

昭和18（一九四三年）年

昭和19（一九四四年）年

昭和26（一九五一年）年

昭和29（一九五四年）年

昭和32（一九五七年）年

昭和37（一九六二年）年

昭和38（一九六三年）年

「青い鳥」の歌 若月紫蘭作詞

ポーポーポー青い鳥
しあわせの鳥幸福の鳥
青い鳥はどこにいる
チルチルミチルの兄妹は
青い鳥さがしの旅に出る
ポーポーポー夢の旅に出る

ポーポーポー青い鳥
幸福の鳥しあわせの鳥
チルチルミチルのさがしてる
青い鳥はどこにいた
クリスマス・イヴの旅から帰りや
ポーポーポー青い鳥はうちにいる

最後にこの訳書についてつけ加えて置かねばならぬことは、わたしは作者メーテルリンクがノーベル賞をもらったとおなじ一九一三年の、四月二十一日に、この劇を日本において日本語に翻訳し発行する権利を、作者からゆずり受け、「昭和三年五月四日第二二七三号の一登録済」になっていることです。

本訳の最初の台本は、メスーエン社発行「マツト才訳英語版第二十九版」でしたが、あとでその台本を仏語本とくらべて見ると、大分ちがったところがあるので、そのご、仏語本シャルパンチエー社三十三版と対比して訳し直し、今また改訳したのが第六回目改訳のこの訳本です。

（メーテルリンク作 若月紫蘭訳『青い鳥』（岩波少年文庫）「訳者のことば」より）

2月10日、山口県佐波郡西ノ浦（現・防府市西浦）に生まれる。

7月、東京帝国大学英文科を卒業。

2月、『アナトール・フランス短篇傑作集』（若月紫蘭訳）を刊行。8月、『新アラビヤ物語』（スチーブンソン作◇若月紫蘭・帆引徹蔵訳）を刊行。

6月・12月、『東京年中行事』上下巻を刊行。

4月21日、『青い鳥』の日本語翻訳発行権をメーテルリンクから直接譲り受ける。6月、戯曲『サロメ』（ワイルド作◇若月紫蘭訳）を刊行。12月、童話劇『青い鳥』上下巻（メーテルリンク作◇若月紫蘭訳）を英語版より訳出して刊行。

6月、『四人叢書 生活の朝』（若月紫蘭脚本ほか）を刊行。

4月、童話劇『青い鳥』（メーテルリンク作◇若月紫蘭訳）を仏語版より訳出して刊行。7月、『田中中将青年修養談』を編集刊行。

6月、戯曲集『滅び行く家』を刊行。8月、演劇雑誌『人と芸術』創刊。月刊誌、不定期刊で継続して昭和6年（一九三一）まで刊行した。10月、『ヴィカー物語』（グールドスミス作◇若月紫蘭訳）を刊行。

2月、戯曲『石田光成の死』（『早稲田文学』）を発表。5月、戯曲集『石田光成の死』を刊行。11月、新劇研究所設立（若月紫蘭経営・東儀鉄笛所長。昭和6年まで経営。）

4月、評論『政治家の犯罪』を刊行。
4月、『詳註全訳近松傑作集』全三巻刊行開始。（昭和5年5月刊行終了。）
6月、童話劇『青い鳥』（メーテルリンク作◇若月紫蘭訳）を「岩波文庫」より刊行。

4月、句歌集『銀鐘』を刊行。
6月、『全訳近松浄瑠璃選』『近松人形浄瑠璃の研究』を刊行。
3月、『古浄瑠璃の新研究』全三巻刊行開始。（昭和15年5月刊行終了。）『十二段草子の研究』を刊行。

8月、『松平大和守日記』（観劇日記）を発見。演劇史研究に大いに利益を得る。
6月、『人形浄瑠璃三百年史』を刊行。7月、『操浄瑠璃年表と諸文庫目録』を編集刊行。

4月、歌集『新なる黎明』を刊行。

4月、『人形浄瑠璃史研究―人形浄瑠璃三百年史―』を刊行。6月、文部省諸学振興会芸術学会において「松平大和守日記」に関する講演を行う。7月、句集『春の影』を刊行。12月、『古浄瑠璃の研究』全四巻刊行開始。昭和19年（一九四四）11月刊行終了。

4月、俳諧紀行『心の旅』を刊行。5月、『人形浄瑠璃史研究―人形浄瑠璃三百年史―』で前年度の最優良研究書として国民芸術協会より推薦表彰される。10月、『近世初期国劇の研究』を刊行し、「松平大和守日記」（観劇日記）を謄写版刷で刊行。10月、童話劇『青い鳥』（メーテルリンク作◇若月紫蘭訳）第六回目の改訳をして「岩波少年文庫」より刊行。

8月26日、日本演劇協会より表彰される。10月、『元祿歌舞伎と近松研究』を刊行。
6月、『近松芸術と元祿歌舞伎』を刊行。
7月22日、東京に没す。享年83歳。

10月、妻・乙女の手で、遺詠集（句歌集）『影』が刊行される。